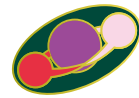


la santé 健康

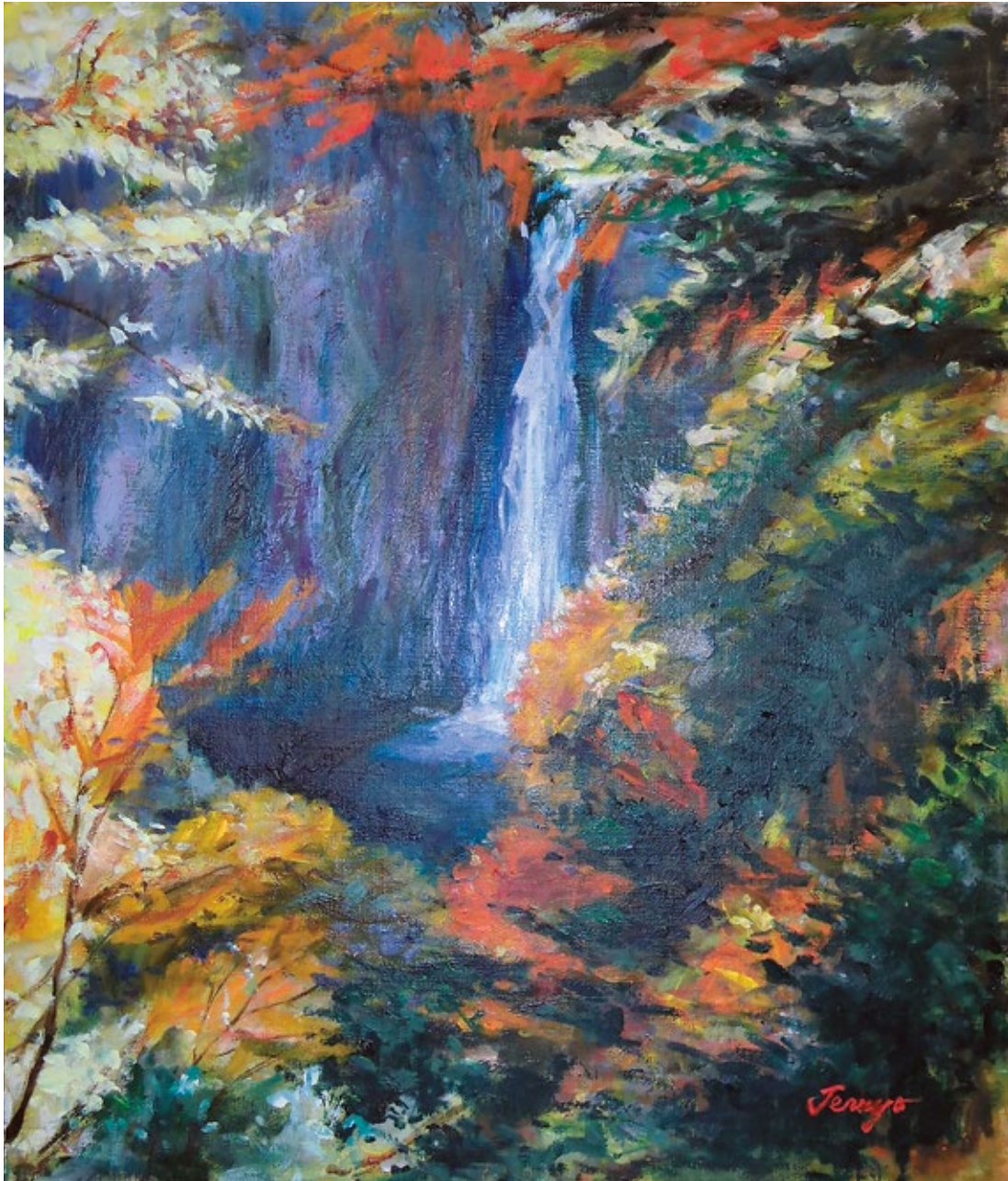
ラ・サニテ



vol.148
令和2年10月27日

2020 秋

編集・発行：社会医療法人玄真堂
広報委員会：畑辺恵美、立川隆子
中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>



『秋』川嶌 照代画

理念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント（説明・同意・納得）を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

新型コロナ感染症から学ぶ

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

理事長 川島 真人



去る7月18日、中津地方文化財協議会にて『新型コロナ感染症から学ぶ』と題する講演を行った。『国土交通白書2008年』によれば、1980年頃から今日に至る40年間に、日本の平均気温が1度上昇している事が記載されている。これは温室ガスが大量に排出され、大気中の二酸化炭素濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇、これに伴い海面、水面も上昇していることはすでに良く知られている。最近は特に氷河や南極の氷の融解や、海水の熱膨張や蒸発散量の増加に伴って、海面上昇のみならず台風

の増加、降水量の増加、豪雨や渇水発生の増加が起こっている。このような状況から地球環境が激変をきたしている事は、ここ数年来続いている異常気象によって日々感じる場所である。IMF（国際通貨基金）においても、このような環境変化が経済に及ぼす重大な影響について具体的な発表が続いており、実際に二酸化炭素の濃度がますます増加している事が多く報告されている。安価な石炭を火力発電に利用するという事が、アジアのみならず地球全体として広がっており、日本においても石炭の火力発電が大きな問題になっている。国際会議においても日本の石炭による発電の問題は多くの国に指摘され、小泉環境大臣は化石王国というレッテルを張られて大変な思いをしたようである。その結果、ようやく日本も石炭による発電を減少させて行くという事を決意したようである。

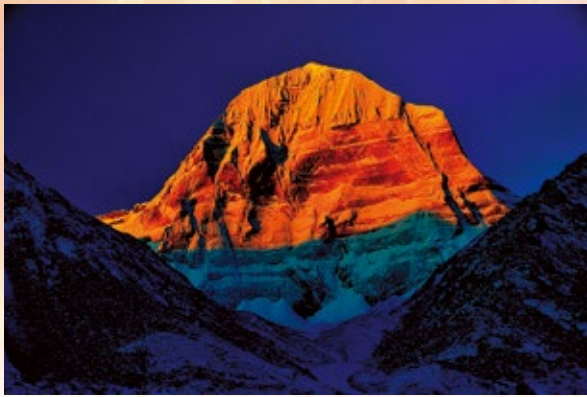


前野良沢

2015年、フランスのC NRS（仏国立科学研究センター）の研究グループの発表によると、シベリアに存在する約3万年前の永久凍土から新種のウイルスのサンプルが発見されている。このウイルスは動物に感染する能力を持ち、コロナに次ぐ新しい感染症の大本になるという可能性も心配されている。自然破壊や気候変動が続けば新型コロナのみならず、新しいタイプの感染症が増えてくる事は、国連が4月6日、すでに警告をしている。また今後、新型コロナと同様に動物由来感染症（ズーノーシス）は自然の破壊と開発が進めば進むほど増える事が報告されている。国連のレポートによればズーノーシスは自然環境と密接に結びついており、各国が一緒に頑張って環境問題に取り組まなければコロナと同様のパンデミックが起きるだろうと訴えている。

日本においても江戸時代の1774年に『ターヘル・アーナトミア』を翻訳した杉田玄白とともに、『解体新書』を出版し日本で蘭学を創始した中津藩の前野良沢が「人間が自然界の一部を支配したりする事ができると非常に傲慢になつて独力でしように思う。自分の力は自然の力の一部という謙譲の心が重要である」と言っている。これは人間も自然の一部であるという老子の考え方であり、良沢は解剖を学ぶことによつてこの考え方に共感したのである。『管蠡秘言（かんれいひげん）』という前野良沢の随筆には「天地の運行には過不及がある事は、その原因は人為にある。山林を伐り尽くせば干ばつ烈風が至る」とあり、自然を破壊する事は大変大きな問題を引き起こすという事を書き残している。このように日本の江戸時代の学者ですら予見していた事が急速に今の地球上に起こっているのである。

今年の4月3日、直腸がんのために79歳で長野市の病院で亡く



チベット自治区・カイラス山 (寺田周明氏撮影)

なったC・W・ニコルさんは環境保護に取り組み、カナダやエチオピアで海洋哺乳類や野生動物の保護に取り組んだ。1986年、長野県信濃町黒姫に拠点をおいて荒れ果てた里山を購入し「アフアンの森」と名付けて間伐や除草などによる森の再生活動を始めた。このニコルさんの活動は全国の講演会やテレビの出演などでよく知られているが「生命体はあまねく素晴らしい競争の中にあります。カモシカと草、カモシカとライオン、アリとアリクイ、いずれも食べる側と食べられる側の間にあ

る競争はウイルスも同じです。ウイルスから私たちが身を守るには、まず免疫をつける事です。その上で感染者を隔離する努力は当面必要でしょう。しかし、強制を伴う隔離は長く続ける事はできません。求うした中で、私たちに今、求められているのは「バランス」なのです」と、「免疫、隔離、そしてバランス」という事がすでに述べられていた。「大木があつて、いろんな動物や植物が何千何万年も一緒に「バランス」をとって共生して生きているのは森です。それ

我々が入って手入れをして目的は原生林に近い状態にしよう」と。これこそ森なのです」黒姫山の森の再生に30年以上かけて取り組んできたが、黒姫山の開発が進められようとしていると聞き、この自然を守ろうと真剣に身をもつて考え体験した人である。

解剖学者の養老孟司先生はニコルさんの遺言に対して「新型コロナの発生率を見てもわかるように大都会は危険です。暮らしやすい所に人間が動くとしたら地方に動くのがごく自然ではないでしょうか？ある程度自然に触れる生活をした方が自分のためであり、子供のためであり、社会のためでもあります」と述べている。また日本総合研究所主席研究員・藻谷浩介さんはニコルさんの遺言に対して「我々も含めて下の世代は都市にかたよりすぎて暮らしていて、自然との間合いの取り方を勉強していいないですよ。そういう事をニコルさんは言っていました。彼は自然との「間合い」の感覚を肌感覚で身につけていたように思います。日本で、新型コロナで亡くなった人の半数以上は一都三県に住んでいる人達で、東京・首都圏の密のなり方が一線を越えて極端に密になっていくという事でしょう。東京という狭い土地にもものすごく緑と人間を詰め込んでかろうじて生きていくという環境から、間合いを取りながら対処すべきところには毅然と対処すれば、過度に怖がらず行動できるでしょ

う。自分の頭で考え、体で体験しよう」とニコルさんは言っていたはずなのです」と述べている。作家の倉本聰さんもニコルさんの言い分に対して「彼は自然破壊の凄まじさとそれに対する怒りみたいなものが幼い頃から身につけていたんだと思います。資本主義経済の進みや発達と、それによって自然が破壊されていく事とずつと彼は心の中に怒りとして持っていたのです。本当の豊かさとは何か、とずつと疑問を抱いていたのです。これほどのコロナ騒ぎがあつて果たして人間、日本人は変われるだろうか、あるいは変わっていないのだろうかという事が一番問題だと思えます」と述べている。

新型コロナウイルスの今までとこれから

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

院長 川島 眞之



株式会社オフィスワタナベ様より寄贈

新型コロナウイルスによる感染症が国内で流行しはじめてから半年になりますが、その後、第2波ともいえるべき流行を経験し現在に至っています（9月執筆時点）。その間、

中津市では医師会による発熱外来が設置され、当院ではクリニック外来にて、発熱を伴う患者用のプレハブを設置する等、徐々に体制が確立されてきました。

域域や中津市内でも新型コロナウイルス患者が報告されるようになると、緊張が一気に高まりました。更に、北九州地区単独といってもいい第2波が到来、休む間もなく緊張を強いられることとなりました。当時、院内におけるウイル

しかしながら当初はウイルスに関して不確かな情報が多く、近隣の北九州市では外傷の救急患者に起因する病院内クラスターが発生し、中津市の北側に隣接する福岡県京築

ス抗原検査等の手段もなく、一方、骨折などの外傷患者は発熱を伴うケースがあり、肺炎が誘因になったと思われる転倒・骨折のケースもみられ、救急患者の受け入れ、対応に苦慮いたしました。また、マスクやアルコールをはじめとする物資の不足、感染が疑われた患者や職員（PCR検査が行われた場合には2週間隔離）、濃厚接触者に準ずる職員の処遇、当院主催の九州高気圧環境医学会の延期など、付随する様々な問題も挙がってきました。

その間、関係者の皆様にはマスク等の援助や多くの励ましのお言葉などを頂き大変ありがとうございました。また、このような状況でも献身的に対応して頂いている職員の皆さんに深謝いたします。このコロナ禍が落ち着くにはまだまだ時間がかかる模様であり、冬に向かって第3波、

第4波と今後が懸念されるところですが、予防・検査・治療方法や過去のコロナウイルスとの免疫学的交差反応など、このウイルスに関する知見も徐々に明らかになっており、少しずつ視界が開けてきたように思われます。ウイルスを正しく恐れて対応し、地域医療の継続に尽力してまいりたいと思います。

あたたかいご支援・励ましのお言葉に感謝申し上げます。

寄贈者	寄贈物	受領日
株式会社オフィスワタナベ	マスク	4月23日
中津ロータリークラブ	マスク・フェイスシールド	5月28日
日立製作所	フェイスシールド	8月28日

新人歓迎ピクニックに行ってきました

病院リハビリテーション科 理学療法士 田畑 裕貴

9月12日(土)、当初、天候が心配されましたが、幸いにも好天に恵まれ、中津の名所である八面山で新人歓迎ピクニックが開催されました。

平和公園では、戦争の歴史、平和の大切さを学ぶことができました。今の平和、日米関係があるのも先人の方々のお

かけであるという事に感謝し、私たちでこの歴史を止める事無く、次世代にも受け継いでいかなければいけないと感じ、いい経験になりました。

その後、お弁当を新人、管理職で輪になって頂きながら、新人各々が決意表明を致しました。私自身、

まだまだ不慣れな部分が多く、先輩方に迷惑をかけてばかりですが、患者さんに寄り添い安心していただけるような理学療法士を目指し、一日も早く玄真堂の一員として活躍できるように頑張りたいです。

最後となりましたが、今回、コロナで大変な時期にも関わらず、このような素晴らしい会の企画・

開催を行っていただいた皆様に深く感謝申し上げます。



論文が掲載されました

クリニックリハビリテーション科

理学療法士 井原 拓哉



この度、私が継続して取り組んでいた研究が、「Coordination Pattern of the Thigh, Pelvic, and Lumbar

Movements during the Gait of Patients with Hip Osteoarthritis (変形性股関節症患者の歩行中の大腿、骨盤腰椎運動の協調パターン)」として、Journal of Healthcare Engineeringに掲載されました。この研究の結果が、当院だけでなく世界に発信されることで、更なる理学療法法の発展、ひいては医療の発展に貢献できれば幸いと思っております。このような業績を達成できたのも、皆様のご支援・ご協力のおかげであり、深謝いたします。今後、日頃の臨床に勤しみ、理事長の提唱する地域から世界水準の医療の提供を目指して、変形性股関節症の患者さんのみならず、当院に来院して下さる皆様の症状改善のために日々精進していきたいと思えます。

コロナなんて吹き飛ばせよ なのみ夕涼み会

介護老人保健施設 なのみ 介護福祉士 長谷川 進作



新型コロナウイルスの影響による利用者様の精神的ストレスを少しでも和らげたいと、清涼感あふれる理事長の笛の音を聴きながら、2020年8月28日、「なのみ夕涼み会」を開催しました。感染予防のため換気とソーシャルディスタンスをとり、3密を避け徹底した環境体制で行いました。

最初に利用者様と職員で「365歩のマーチ」に合わせて体を動かし、続いて全員で歌謡曲を合唱。段々と盛り上



がり、理事長が到着した時には会場から歓声が上がりました。理事長の笛に合わせて手拍子や鳴る子、歌声が鳴りやまず、あつという間の30分でした。

おやつは利用者様に夏を感じてもらいたいと、「昔ながらのところでん」の実演や、「青色で涼しげに飾ったワイディングラスにアイスクャンディー」を召し上がって頂きました。

日頃とは違う利用者様の笑顔にふれ、夕涼み会の企画をして良かったと今後の励みになりました。



デイサービス ひだまり

2020年夏!

デイサービスひだまり
中城 優美



今年は、昨年末より突如出現した「新型コロナウイルス感染症」の感染予防対策にて、緊急事態宣言をはじめ、事業所でも年に数回実施していた屋外外出行事の中止を余儀なくされました。地域に出かけての買い物や、屋外散策は皆様にとっても楽しみにされている行事のひとつだけ

に、「残念!でも仕方ないね」などの声を度々耳にしました。屋内でできる可能な限りの活動を実施してきた中、私たちの周囲では感染者もなく、徹底した予防対策のご協力を続けて頂いている結果も実り、やっとな近郊ではありますが、少人数ずつ、感染対策を厳守した上での屋外活動が実施できました。

『美味しい夏を楽しもう』と題し、8月24日から9月3日の期間、参加希望者対象に、市内中央町「手作りパン屋のホルツ」で焼きたてパンを購入し、その後は市内牛神「武蔵屋菓寮」(甘味処)にて冷た





コロナ禍の生活で 思うこと



診療副部長
後藤 剛

2020年1月頃から新型コロナウイルスが世界的に広がり、私たちの生活は一変した。子供たちの学校は春休み前から休校となり、1学期の大半を自宅で過ごしていた。一般社会でも感染予防の観点から自粛が続いた。最近になり、コロナ感染対策を講じながら徐々に社会活動が再開されてきた。とは言ってもコロナ感染が始まる前の

生活とは明らかに違っている。人と接する機会がある場所でのマスク着用。私自身暑い夏に外でマスクを付ける機会はいままで経験したことがなかった。秋が始まり涼しくなるとマスクを付けることも不快には思わなくなるだろうが、冬に向けて再び感染の増大、はたまたインフルエンザも蔓延してくる可能性がある。まだまだコロナウイルス感染が収束するには時間がかかるだろうし、共存していくためには3密を避け、手洗い、消毒、マスク着用などの予防策を引き続きしていかなければならない。我慢我慢が続くがコロナ禍の中だからこそ、ちよつとした楽しみ

も出来た。観客数が制限されたプロ野球中継は、去年までと違い歓声を上げられない。ミットにおさまるボールの音、ボールをとらえた時のバットの音は去年までのテレビ観戦では聞くことが出来なかった。自粛に嘆くばかりではなく、ちよつとした気付きから楽しみを見つけた。現状を打破する機会を待つことが大事だと思う。



いおやつを頂いてホッと一息。久しぶりの屋外行事、まだまだ暑い最中ではありましたが、武蔵屋のかき氷やわらび餅、季節のパフェ：♪暑さも忘れさせてくれたようでした。メニューは事前にご自身でしっかり選び、予約を入れていたので、お店の対応も素早くて助かりました。焼きたてパンの「ホルツ」では、ご自身の分と、ご主人に！孫に！隣近所の方に！とそれぞれ思い思いに買われていたのが印象的でした。



まだまだコロナウイルス感染症は発症者の報告が続いており、安心できる状態ではありませんが、新しい生活様式に基づきながら、少しずつ前向きに、『全て出来ない』ではなく、『出来る事は何か？』『どのようにしたら出来るのか？』をしつかり考え、実践へ結び付けていく事も大切なのではないかと思えます。

免疫力アップのための食生活

管理栄養士 斎藤 潤哉

免疫力を高めるために必要なことは「腸内環境を良好に保つ」「免疫力を高める食品を摂る」の2点がポイントとなります。



腸内環境を良好に保つ

食べ物の消化・吸収を担う腸は、有害な成分が体内へ侵入するリスクが最も高い所であり、免疫細胞の約70%が腸に集中していると言われていています。

その中で、善玉菌と言われる乳酸菌やビフィズス菌を増やすことにより腸内環境が整えられ、免疫力を高めることができます。

腸内環境を整えるための食品・栄養素

発酵食品

乳酸菌やビフィズス菌などの善玉菌を含む食品（プロバイオティクス）で免疫力を高める食事の基本となります。腸内に定着しないとされているため、日常的に摂り続けることがポイントです。

●ヨーグルト・納豆・みそ・漬物など（抗凝固薬を服用されている方には、納豆の摂取に制限がある場合があります）

オリゴ糖 食物繊維

善玉菌のエサとなること（プレバイオティクス）で、善玉菌の数を増やすことができます。

●オリゴ糖：大豆・玉ねぎ・ごぼう・アスパラガス・にんにくなど
●食物繊維：野菜・きのこ・海藻・果物など

免疫力を高める食品を摂る

腸内環境を整えると同時に、意識的に免疫にかかわる栄養素を摂ることで、さらに効果を高めめます。



免疫力を高める食品・栄養素

たんぱく質

免疫細胞の主成分。摂取不足は免疫細胞の減少による抵抗力の低下に直結します。また筋肉を増やし代謝を上げることも免疫力を高めることには効果的とされます。

●肉・魚・玉子・大豆製品など

抗酸化成分を含むビタミン類

ビタミンA・C・Eには抗酸化作用があり免疫細胞を酸化のストレスから守ります。また、ビタミンA・Cは粘膜を健康に保つ働きもあり、細菌やウイルスの身体への侵入を防ぎます。

●ビタミンA：レバー・うなぎ・緑黄色野菜など
●ビタミンC：ピーマン・ブロッコリー・果物・いもなど
●ビタミンE：ナッツ類・植物油（紅花・ひまわり・コーンなど）など

たんぱく質

ウイルスに対抗するための免疫細胞を作る!

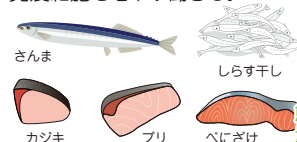
免疫細胞の主材料となるのがたんぱく質です。

ビタミンD

魚に多い!

侵入してきたウイルスをディフェンスする司令塔!

免疫を調整する役割があります。免疫細胞を増やす働きも。



鮭1切で1日に必要な量を摂れます!

ビタミンA

色の濃い野菜に多い!

のどや鼻などの粘膜で細菌をバリア!

ビタミンAは粘膜を作る働きがあります。不足すると、のどや鼻が乾いて風邪をひきやすくなります。



乳酸菌

食物繊維

腸内環境を整える!

免疫細胞を活性化させる役割があります。

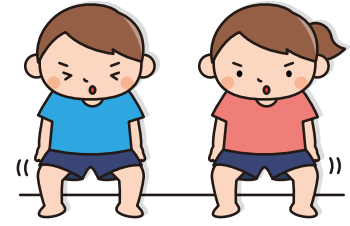
がんばるぞ!

最後に

免疫力を高める食品を摂っていても、偏った食生活や過度なダイエット、睡眠不足、低体温といった不規則な生活は免疫力を下げる原因となります。適度な運動や規則正しい生活を心がけることも大切です。日ごろの生活習慣を見直し、体全体の代謝と体温を高く保ち、免疫力を高めたいものです。

自宅でできる体操

訪問看護リハビリステーション 理学療法士 野田 拓



現在、コロナ禍で「外出を控えている」「家の中でじつとしていて」といった声を多く聞くようになっていきます。しかし、今まで行なっていた運動を怠ると体力や筋力が低下し、少しの段差や坂道でも転びやすくなってしまいます。自粛で家の中にいて何もしせずに、ただ時間だけが経つというのは勿体ないと思いませんか？

そこで、誰でも簡単にできる『自宅でできる体操』を紹介したいと思います。今回は「壁に寄りかかっを行なうスクワット」です。この運動は壁さえあれば家のどこでもできるので、暇な時間にいつでも行なうことができます。スクワットは足腰に負担がかかりきつという印象が強いかもしれませんが、壁に寄りかか

ることで腰や膝への負担を減らしながら、歩くのに必要な足腰の力を鍛えることができます。運動方法は、写真のように背中と両手を壁につけて足を少しだけ前に出します。両足は肩幅に開きます。次に壁を滑るよう背中を下げてください。膝の悪い方は痛みのでない範囲で膝を曲げてください。背中を下げたら次は徐々に

上げて最初の姿勢まで戻しましょう。このとき、ゆっくり運動することで足腰に集中が行き、より運動効率が高くなるので、慌てずに自分のペースで行なってください。ただ運動だけするのはきついと思うので、テレビを観ながら、家族も一緒に誘いながら、楽しく運動してみたいかがでしょうか。

「尺骨神経麻痺とギオン管症候群の概要」

安田作業療法士

2020.8.17

「手指PIP屈曲拘縮に対してスプリント作製した一症例」

石井作業療法士

「MP屈曲・伸展運動の説明」

病院リハビリテーション科杉木部長代理

川島肩をカタらう会

2020.6.22

「上腕骨近位端骨折後の運動療法」

奥貞作業療法士

2020.7.27

「肩関節内圧について」

松尾理学療法士

2020.8.24

「肩甲胸郭関節について」

岩本理学療法士

膝関節勉強会

2020.6.10

「PFOAについて」

松田理学療法士

2020.7.22

「前十字靭帯損傷 当院のORIGINAL PROTOCOL作成を目指して」

合津理学療法士

2020.8.12

「小児大腿骨骨幹部骨折」

屋久理学療法士

看護部勉強会

2020.8.3

「医療機器の取り扱い・医療ガスについて」

院外発表・講演

2020.6.28～8.10

第32回日本ハンドセラピィ学会学術集会(オンライン)

「プレート固定術後の基節骨骨折患者に対する夜間装具の効果について」

クリニックリハビリテーション科岸本副主任

2020.7.18

中津地方文化財協議会

(中津市)

「新型コロナウイルスのパンデミックとナイチンゲール、前野良沢の自然思想」

川島理事長講演

2020.8.28

旭化成フォーム株式会社社内研修会 (オンライン)

「新型コロナウイルス(パンデミック)と免疫」

川島理事長講演

院内勉強会

モーニングセミナー

2020.6.19

「疲労骨折について」

古江副院長

2020.7.17

「変形性膝関節症の治療～診療点数を含めての考察～」

本山副院長

2020.8.21

「今さら聞けない肩のこと(画像所見について)」

佐々木診療部長

カワシマハンドセラピィ研究会

2020.6.15

「第2肩関節通過障害を呈した2例」

クリニックリハビリテーション科辛嶋副主任

「手内筋の働き」

クリニックリハビリテーション科岸本副主任

2020.7.20

「小指基節骨骨折後、関節授動術を呈した症例」

横山作業療法士

2020.6.2

2年経過時では高齢者における転位した上腕骨近位端骨折に対してのリバーズ型肩関節置換術はプレート固定より優れている

佐々木診療部長

2020.6.9

急性期の腱性マレットに対し装具とピンニングによる治療結果の比較

後藤診療副部長

2020.6.23

舟状骨腰部骨折の骨接合において、掌側刺入と背側刺入についてスクリュー位置での比較

濱田医師

2020.6.30

神経筋リスクの特徴に基づき行う神経筋訓練の有効性

本山副院長

2020.7.7

小児上腕骨顆上骨折の手術のタイミング

古江副院長

2020.7.14

PS型人工膝関節置換術の脛骨固定におけるセメントレスとセメントの比較

川島院長

2020.7.28

高齢者の大腿骨近位部骨折において入院時の貧血は死亡率を高める

渡邊医長

2020.8.4

初回肩関節前方脱臼に対する一次的関節鏡視下制動術

佐々木診療部長

2020.8.11

パウエル3型の垂直な大腿骨頸部骨折の骨接合の結果

濱田医師

2020.8.25

指尖部切断に対しCap型装具を使用し治療した経験

後藤診療副部長

論文（共同含）・誌上発表

- 井原拓哉：Coordination Pattern of the Thigh, Pelvic, and Lumbar Movements during the Gait of Patients with Hip Osteoarthritis. Journal of Healthcare Engineering : 1-9, 2020.
- 川島真人：新型コロナウイルスと自然. 雲八幡宮神宮報 かしわ手. (94) : 4-5, 2020.
- 川島真人：村上玄水の肖像画発見～中津のパイオニア医師村上玄水について～令和元年7月6日講演. 会報 第56号 三毛の文化. : 7-13, 2020.
- 川島真人：新型コロナウイルス肺炎とパンデミック 令和2年4月25日. 会報 第56号 三毛の文化. : 51-58, 2020.
- 川島真人：伊東玄朴と高野長英 令和2年3月28日 講演. 会報 第56号 三毛の文化. : 45-51, 2020.

【かわしまさんの介護のすゝめ】

かわしま介護保険サービスセンター

ケアマネジャー 小野 英樹



私たちが在宅事業部の職員が毎週更新しているブログ「かわしまさんの介護のすゝめ」をご紹介します。

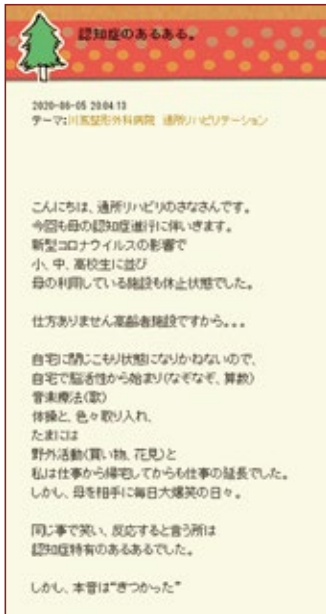
私たちのブログでは、皆さんに知ってほしい介護に関する豆知識や日常生活での工夫、私たちの仕事内容、日頃感じていること等、多岐にわたる内容を載せていきます。

例えば、感染症に関して「女の子の敵 マスクによる肌荒れ撃退術」「新しい生活様式」、事業所の活動の紹介「びりびりかわしまオリピック2020」、豆乳ごま豆腐の作り方」等あります。

これはほんの一例ですが、どうでしょうか？何か気になるもの、読んで見たいものはありませんでしたか？

私たちのブログが、少しでも何かしらの役に立ったり、皆さんの気持ちが穏やかになって頂ければ幸いです。ぜひ、一度ブログを覗いてみて下さい。よろしければフォローもお願いします。

「認知症あるある」の実際の記事です。



<http://ameblo.jp/kawashima-care/>

かわしま 在宅 ブログ

検索



編集後記

澄み切った秋空が清々しい季節になり、できることなら思いっきりスポーツをしたり、コンサートや旅行に出かけたいところですが、コロナ禍ではそうもいきませんね。コロナと共存する生活にも慣れてきて気も緩みがちですが、今一度気を引き締めこの状況を乗り越えていきましょう。先の見通しが辛い状況が続きますが、くれぐれもご自愛下さい。(H・E)

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

〔患者様の権利〕

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

〔患者様の責務〕

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い